



最大の危機に直面したメルケル首相だが、SPDとの連立模索で回避

JIRON KOHRO VI

自慢の「粘り腰」は通じず…… 中道左派に救われた

独メルケル政権

国際アナリスト

甲斐正史

一転SPDとの大連立浮上

独メルケル政権弱地に……。先の連邦議会選では、連立与党の一角・

自由民主党（FDP）が低迷、3党連立は決裂、新たな政権作りに奔走していた、最大与党・キリスト教民主同盟（CDU）の党首、メルケル

首相。しかし、連立工作は不調、「EUの牽引車」として活躍したメルケル氏も「これが最後か」とまで囁かれるようになった。

メルケル政権が直面する最大の危機であった。

しかし、ここに来て第2党の中道左派、社会民主党（SPD）との大連立を模索する機運が急浮上、急転直下問題解決の糸口が見え、国民をほっとさせている。

SPDとの連立にはまだ細部で問題も多いが、2018年冒頭には双方の共通点が見出せる見通しとなった。

メルケル氏は、これまでの膠着状態を何とか打開しようと、一時連邦議会の解散・総選挙まで決意していたが、かたくなに連立を拒んできたSPDが連立参加に柔軟な姿勢を示したため、メルケル氏の方針転換、連立話が浮上した。

メルケル氏は先の連立政権の協議

決裂について「あらゆる手を尽くした。とても残念だ」と一言。「すでに彼女の威厳が弱まっている」との周囲の指摘もあり、次期政権の行方は不透明に陥った。

協議決裂の主な原因は、難民・移民問題と環境エネルギー問題を巡る政策の相違にあった。

CDUとFDPが難民受け入れ制限を目指したのに対し、難民に寛容だった緑の党が環境問題で火力発電の大幅削減を主張、3党の内2党は慎重な姿勢を崩さなかった。

メルケル氏はこれまでの保守政策を一部転換、寛容な難民対応、環境重視の政策で評価は高めたものの、3党の狭間に立たされた格好になった。

メルケル氏は持ち前の「粘り腰」で、何とか妥協点を見出そうとしたが、結果は協議決裂。

カギを握る中道左派のSPDは、か



シュタンマイヤー大統領（独大統領府）

たくなに連立を拒否、メルケル氏は

「少数与党」の政権か「再選挙」の

二者択一の窮地に追い込まれていた。

だが、SPDが突然柔軟な姿勢に

転換した理由は定かではないが、シュ

タインマイヤー大統領の仲介による

メルケル首相とのトップ会談が実現

大連立による「安定政権樹立」の国

民の声に応じたものと見られている。

SPDは3党協議の決裂直後、幹部

会で改めて連立を拒絶したものの、

国や地方レベルで「状況は変わった」

「あらゆる選択肢を議論すべきだ」

の反発が、一斉に上がったことも否

めない。

至った。

シュタインマイヤー大統領は首相候

補の議会の提案権は持つが、実際に

は連立交渉を踏まえ手続きを進め

る形式的役割にとどまる。

ただ、多数派の政権ができない場合、

議会解散・再選挙に踏み切るかど

うか、最終的に判断する。

シュタインマイヤー大統領は「政権

樹立は有権者から託された最高の任

務」とし、再選挙回避に努めた。

一時、連立協議の決裂、メルケル

政権の行方不透明で、ユーロ圏改革

へのブレーキがかかるなどEU各国へ

の打撃は否めず、戸惑いの声も上が

つた。

フランスのマクロン大統領は「事態

悪化は望まない。再選挙回避、連立

が最善」と述べ、ドイツの政局不安

を懸念。

マクロン氏はドイツ連邦議会選直後

に、ユーロ圏で加盟国による共通財

務相の設置を呼びかけ、ユーロ圏が

共通予算から投資、加盟国経済を

支えるシステムで、仏独両輪で改革

を進めポピュリズム勢力に対抗しよ

う、の狙いがあつた。

オランダは「欧州にとつて悪いユー

ス。（決裂は）何とか連立を」（サイ

ルストラ外相）、欧州委員会のシナス

報道官は「我々は、ドイツ憲法に基

づくプロセスがドイツのトレッドマー

クである安定性と継続性の土台とな

ることを信じている」と述べている。

ポピュリズム、右翼台頭のEU

改革には独のリーダーシップが必要

日本でも「EUの停滞がさらに進む

ことを心配した。ポピュリズム的な

政権が増え、独のリーダーシップが

なければEUの改革はできない」（政

策研究家）としている。

マクロン大統領が欧州再編に向けて

メルケル氏に協力と呼びかけ、英国

とのブレクジット交渉が修羅場を迎

えるなど、メルケル氏の連立がうま

く運んだとしても困難な問題は山積

している。

極右政党との問題も浮上、オラン

ダではマルク・ルッテ首相が支持され、

フランスでは堂々とEUの支持を掲げ

る中道派マクロン氏が、極右「国民

戦線」に圧勝した。

ドイツでは今回の選挙で中道派がど

うにか持ちこたえたものの、極右の

「ドイツのための選択肢」（AfD）

が躍進している。

EU各国ともポピュリズムの潮流も

途絶えないが、ドイツ・アルテナ市

では、移民緩和政策に抗議した男に